

付属資料 1 専門知識習得の年次ごとの到達目標

各項目について、専攻医が何年目までに到達すべきかを示す。

●は当該年次までに到達することを目標とする項目。

I. 医師の法的義務と職業倫理

一般目標:医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる

行動目標あるいは達成目標	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 医師法等で定められた医師の義務を知っている	●			
2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している	●			
3. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる	●			
4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる	●			
5. DOH(Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている	●			
6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる	●			

付属資料 1 専門知識習得の年次ごとの到達目標

II. 運動器の基礎知識

一般目標：運動器疾患の理解に必要な運動器の生理学および病態生理学を修得する

行動目標あるいは達成目標	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 体幹・四肢の解剖を修得する		●		
2. 次の組織の正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べることができる				
(1) 骨		●		
(2) 関節		●		
(3) 脊椎・脊髄		●		
(4) 神経		●		
(5) 筋腱・靱帯		●		
(6) 血管		●		
3. 骨代謝の概略を述べることができる		●		
4. 骨折の治癒過程を述べることができる		●		
5. 軟骨代謝の概略を述べることができる			●	
6. 軟骨修復について述べることができる			●	
7. 神経の変性と再生について述べることができる			●	
8. 関節症と関節炎の病態の違いを述べることができる				●
9. 運動器のバイオメカニクスの概略を述べることができる				●

付属資料 1 専門知識習得の年次ごとの到達目標

XII. 医療記録

一般目標：医療記録は開示義務に基づき必要事項が正確に記載されねばならないこと、そして医療記録は個人情報であり、社会的にその管理責任を果たさねばならないことを理解・修得する

行動目標あるいは達成目標	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 医療記録は社会的に開示を要求されうるものであることを常に意識して正確に作成できる	●			
2. 医療記録に対する厳重な管理責任が必要であることを理解し、その方策を立て、実施できる	●			
3. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる 記載内容：主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー歴、内服歴、治療歴など	●			
4. 運動器疾患の身体所見が記載できる 記載内容：脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL など	●			
5. 検査結果の記載ができる 記載内容：画像（X 線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織など	●			
6. 症状、経過の記載ができる	●			
7. 検査、治療行為に対するインフォームドコンセントの内容を記載できる	●			
8. 手術記録を適切に作成できる	●			
9. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる	●			
10. リハビリテーション、義肢、装具の処方と結果が記録できる				●
11. 障害認定（労災、身障、交通災害、年金）と診断書の種類と内容が理解でき、適切に記載できる				●

付属資料 1 専門知識習得の年次ごとの到達目標

XIII.研究・発表能力

一般目標：臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲をもち、その結果を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得する

行動目標あるいは達成目標	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 経験症例から研究テーマを立案し、プロトコルを作成できる				●
2. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる		●		
3. 結果を科学的にかつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる			●	
4. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる	●			
5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる	●			
6. 適切な統計学的手法を選択し、解析できる				●